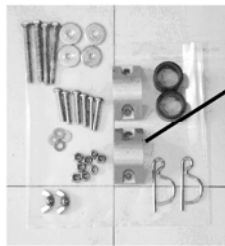


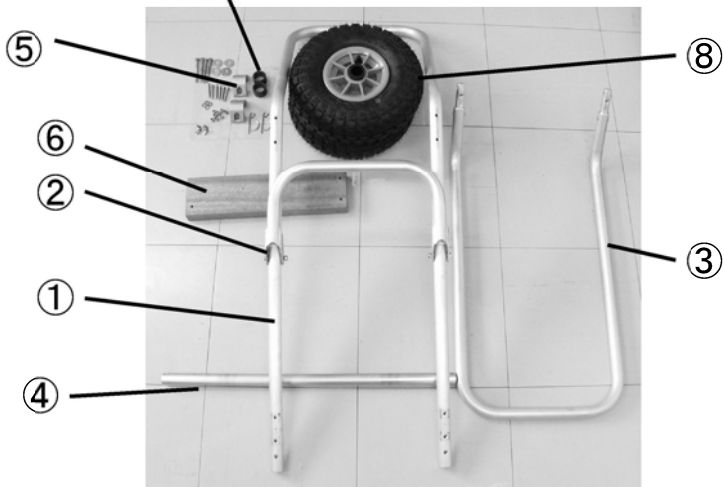
F710 マルチターリーⅡ組立図

図番	品番	品名	適応	数量	税別単価
1	Z730-1	F710マルチターリーメインフレーム		1	8,000 +税
2	Z731-1	F710マルチターリーエンジンバー	メインフレーム組込済	1	5,000 +税
3	Z732-1	F710マルチターリースタンドバー		1	3,000 +税
4	Z733-1	F710マルチターリーⅡ車軸25φ 635mm	635mm	1	2,000 +税
5	Z734-1	F710マルチターリー車軸固定ブラケットR付	ビニールパック入り	2	1,100 +税
6	Z735-2	F710マルチターリーエンジン板 400x105×45 穴付	組込済	1	1,500 +税
7	Z736-3	F710/F200車軸シャフトカバー(アルミパイプ20mm)	ビニールパック入り	2	100 +税
	P04-6-40	SUS六角ボルト6-40	ターリーバー組込済	2	50 +税
	P06-061	ナイロンワッシャーM6	ターリーバー組込済	4	9 +税
	P15-06	SUSナイロンナットM6	ターリーバー組込済	2	62 +税
A	P01-6-35	SUSプラスナブ6-35 (車軸ブラケットに使用)	ビニールパック入り	4	34 +税
A	P04-6-40	SUS六角ボルト6-40 (スタンドバーに使用)	ビニールパック入り	2	50 +税
A	P04-6-75	SUS六角ボルト6-75(エンジン板に使用)	組込済	4	75 +税
A	P06-06	SUSワッシャーM6 (エンジン板に使用)	組込済	4	5 +税
A	P15-06	SUSナイロンナットM6 (エンジン板に使用)	組込済	4	62 +税
A	P15-06	SUSナイロンナットM6 (車軸ブラケットに使用)	ビニールパック入り	4	62 +税
A	P08-06	SUS蝶ナットM6 (スタンドに使用)	ビニールパック入り	2	130 +税
A	Z521	Z521 Dリング	ビニールパック入り	2	230 +税
8	TA30D	TA30D Dタイヤ ベアリング410/350-5inc		2	3,900 +税

⑦ 部品写真



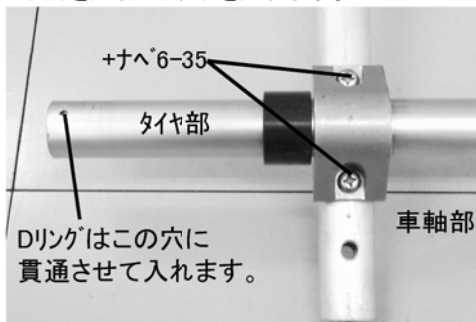
写真A(ビニールパック)



組み立て手順

①

車軸ブラケットと車軸をM6-35プラスナブとナイロンナットにてメインフレームのエンジン板取り付け側に固定します。
車軸シャフトカバーを入れます。
タイヤを入れてDリングを入れます。

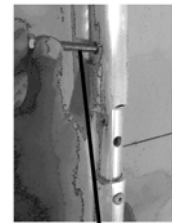


車軸シャフトカバーアルミ(シルバー)を入れてその外にタイヤを入れます。

タイヤ空気圧1.0kg~0.8kgにてご使用下さい
ガソリンスタンドの空気入れで注入出来ます(一部メンテナンス、ミニバイク用も可)

②

エンジンターリーとしてご使用の場合はスタンドバーを取り付けボルト+蝶ナットで止めます。
ボートの前輪として使用する場合にはこのスタンドは取り外します。



ボルト6-40+蝶ナット

F710 マルチドローリー II のご使用について

このたびはマルチドローリーのお買い上げ誠に有難うございます、下記の点を必ず読んで安全にご使用ください。
又この取扱説明書は常に携帯し手順に従いご使用ください。

マルチドローリー使用する前に必ずネジ、ボルト類の点検、締め直しをしてください、緩んだまま使用しますとフレーム等破損の原因になります。

動力等での牽引は絶対におやめください。

悪路等走行する場合は前方の安全や路面状況を、よく確認してご使用ください、無理をしますと船体及びマルチドローリー等破損の原因になります。

水が浸入した艇は予想以上に重量が増えていますので必ず排水してから使用してください。

不明な点、その他お問い合わせは、お買い求めの販売店までご連絡ください。

●ホートの前輪ドローリーとしてご使用する場合。

必ずトランサムドローリー(後輪)と併用してご使用下さい、マルチドローリー単体では運搬が出来ません。

ハウリングを直接トイングバー(写真A)に引っ掛けて使用します。

FRPホート、アルミホートにご使用の場合はステムにアイ等を取り付け写真B、Cの用にロープを掛けて使用してください。

※尚、リング形状、強度によりリング取り付け部が破損する場合がございますので安全を確認した上で引っ掛け使用してください。(特にインフレーターホート)
もし強度が弱いと思われる場合は7Mほどのロープを用意し下記の手順でご使用ください。

- ① 艇体の取っ手等(写真D)よりロープを取りハウ方向に廻し写真Aの長さ位にセットします。
- ② 船体のハウリングとロープを通しロープ先端にアイを作ります、アイをドローリーのトイングバーに引っ掛けます(写真E)
- ③ マルチドローリーを起こします(写真F)、ロープが長すぎて艇体が地面と擦れる場合はロープの長さを調整してください。
- ④ ロープの片側にスナップフック(別売、ホームセンター等でご購入ください:写真G)を使用すれば簡単に脱着出来ます。

注意!)急な下り坂ではトイングバーから艇体側ハウリングもしくはロープが外れる場合がありますのでご注意ください。

注意!)写真Aのロープを船体に付けたまま走行しないで下さい、ロープがスクリューに絡む場合があります。



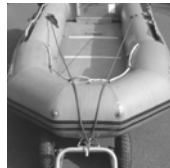
写真A



写真B



写真C



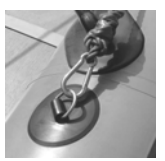
写真D



写真E



写真F



写真G

●エンジンドローリーとして使用する場合

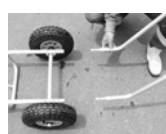


- ① トイングバーをたたみスタンドを下から差込、ボルト6-40+蝶ナットで締めて使用します。
- ② エンジンは15HPまで、Sシャフトのみ使用出来ます。
- ③ フラッシングのアイドリングの際各部ボルト、ナットが緩む場合がありますので適宜締め込みをして下さい。
- ④ 悪路、段差等無理に走行するとエンジン板が割れる恐れがありますので無理な運搬はおやめ下さい。

●荷物の運搬ドローリーとして使用する場合



スパンカー等の運搬



写真H

- ① ドローリーを裏返して使用します。
- ② 積載重量は40Kg以内でご使用下さい。
- ③ 長尺物の運搬にはスタンドバーを写真Hの様にメインフレーム終端部に差込み使用して下さい。
- ④ 固定用ゴムバンド等はホームセンター等でお買い求め下さい。

ご注意

ご使用後は真水でよく洗い塩分を落としてください。

タイヤハウリング部には油、 그리스等を付けないで下さい、砂が付着し磨耗が早まります。

安全なボートライフをお楽しみ下さい。

(有)ファクトリーゼロ
TEL 046-238-9411

タイヤご使用上の注意

このたびは当社製品のお買い上げまことにありがとうございます。
当社エアータイヤにつきまして下記のことに注意してご使用下さい。

TA30F / TA30G / TA30J (F タイヤ、G タイヤ、J タイヤ) (ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用)

- チューブレスタイヤです、チューブは入っていません。
- タイヤ空気圧は約 0.8KG~1.0KG 位にてお願い致します。特に夏場は直射日光にて内圧が高まります必ず 0.8KG 以下でご使用下さい。
- 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください、車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5KG 以下にして下さい、又、停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が下がりますとタイヤの内圧が下がりチューブレスタイヤの為空気が抜けてしまう場合が有りますので船を載せて保管される場合は時々チェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置しますとタイヤがヒビ割れし空気再注入不可能となってしまいます、長期保管の場合は台車の下にブロック等を入れておくと良いでしょう。
- エア-漏れでも早期に対処していただければ十分再生いたしますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。

TA30A(A タイヤ) (アルミランチャー、トランスムドロー等) に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8KG~1.0KG 位にてお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります、又冬場は逆に低温にて空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください、車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5KG 以下にして下さい、又、停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化が早まりますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。
- 交換用タイヤ(外側) チューブ、別途販売しています、適宜交換下さい。

TA30D(D タイヤ) (マルチドロー、Z071 前輪、等) に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0KG~1.5KG 位にてお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります、又冬場は逆に低温にて空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の再はなるべく車外にて搬送してください、車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5KG 以下にして下さい、又、停車時必ず窓を開け換気し直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化が早まりますので時々点検していただけるようお願い申し上げます。

上記全てのタイヤについて

- 車軸部にベアリングが内蔵してあります、ベアリング部にはグリス等塗布しないようにして下さい、砂、埃、が付着し磨耗の原因となります、ベアリング分は良く水洗して下さい。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品がございますので、補修をしてください。
- 空気を入れる場合がソリスタント等においてある自動車、バイク用、空気入れで入れられます一般用自転車用空気入れではバルブ形状が合いません、詳しくはHPご覧ください。

空気圧換算表

kg	Kpa(キロパスカル)	pa(パスカル)	PSI(ポンド)	Bar(バール)
1	100	100000	14.2	1